

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3591600089		
法人名	医療法人社団 早川内科医院		
事業所名	グループホーム なみおと		
所在地	山口県山陽小野田市大字小野田1147-13		
自己評価作成日	平成24年1月25日	評価結果市町受理日	平成24年5月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年2月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ホームの後方には竜王山、前方にはきららビーチを望み風光明媚な場所に位置しています。「無視しない、急がせない、できないとあきらめない」を基本にし、穏やかなその人らしい生活ができるよう支援しております。ゆったりとしたやさしい雰囲気です。炉用者様の生き生きとした笑顔を引き出せるよう職員全員が笑顔で接します。家族の方が要望されれば、看護師・介護職員が協力してターミナルケアにも取り組んでおります。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は運営推進会議を通して地域の方と意見交換されるほか、地域の行事である盆踊り大会やどんど焼き、文化祭、敬老会等へ利用者、職員が参加されたり、事業所主催の夏祭りや餅つきには地域の多くの方が参加しておられ、小中学生の見学や体験学習を受け入れたり、認知症講座の講師として地域に Outreach されるなど、自治会の行事や地域活動に参加される中で地域に溶け込み、地域の方々と日常的に交流をしておられます。消防署の協力を得て、地域住民とともに消防、避難訓練を実施され、避難場所や避難方法の確認や自治会を含めた連絡網の作成など、地域との協力体制を築いておられます。「住み慣れた町でその人らしく最後まで」と看取りの方針を掲げられ、家族や医師、職員、関係者と連携し、話し合い、方針を共有してターミナルケアに取り組んでおられます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き生きと働いている ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示し広報誌にも記載している。介護理念を作成して月一回のミーティングや朝のミーティングに確認している。	事業所独自の理念を作り、事務所に掲示し、ミーティング時に確認し共有している。職員は地域密着型サービスの意義を理解しており、理念に添ったケアとなるよう具体的な目標を立てて実践につなげている。事業所便りに掲載している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し総会や委員会に参加している。広報誌や回覧板を回し地域行事に参加したり、事業所の行事に地域の方に参加してもらっている。近くにきらら交流館やガラス館もあり散歩途中には立ち寄って地域の方との交流を図っている。恒例の餅つきには自治会や社会福祉協議会の方々に参加してもらっている。餅つきの日には地域の子供も集まり利用者様とふれあわれていた。また夏には自治会の協力で夏祭りを行った。	自治会に加入し、総会や班長会議で情報交換を行い理解と交流を深めている。地域の行事である盆踊り大会やどんど焼き、敬老会、文化祭、フリーマーケット等に参加している。事業所主催で開催する夏祭りや餅つきに地域住民の参加があるほか、散歩時に出会う地域の人と日常的に交流を図っている。ハモニカやフラダンスのボランティアとの交流、小、中学生の見学や体験学習での交流も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長や民生委員、ボランティアグループの方に認知症を理解していただくため、運営推進会議に参加していただいている。認知症について理解を得るための地域へのミニ講座を行った。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者が自己評価の意義について説明している。全職員が分担し記入し、その後全職員で項目ごとに検討し管理者がまとめている。	管理者が自己評価の意義について説明し、職員が分担して記入し、全職員が検討して管理者がまとめている。評価を通して看取りを振り返り、一人ひとりを見つめる介護をさらに深め、昨年の外部評価をもとに応急手当や救急法について研修を行う等、具体的改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各利用者様の状態やケアの内容など報告し、地域の方へ災害時の協力を求め、地域上の注意点など情報収集の場としている。運営推進会議で検討された避難訓練を地域の方々の協力で行われ、地域の方との連携のもと避難訓練を行った。	2ヶ月に1回開催している。利用者の状況や実施状況の報告の後、看取りのケアや外部評価結果、災害時の対応等について報告し、意見交換している。この会議を通して地域との連携が深まり、避難訓練への住民の参加や災害時の連絡網に自治会が加わるなど、会議を運営に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法令についての考え方など情報をメールなどでやり取りし、保険者と事業所の情報交換を密にしている。	管理者は介護支援専門員の会議に出席し、市担当者と情報交換している。地域包括支援センターと困難事例について相談し、協力している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行い抑制・拘束をしないケアを継続している。 出入口は9:30～19:00まで開放し、希望時・不穏時には1対1で付き添い散歩したり見守りをし事故のないように注意している。現在施錠中のユニットについても開放の方向で職員が検討をしている。	身体拘束に関するマニュアルがあり、研修を通して理解を深めるとともに毎月のミーティングにおいて確認し合い、全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は鍵をかけたまま取り組むをしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を用いミーティング時研修を行っている。 職員は基礎知識を持ちその場面に遭遇した場合はさりげなく助言できる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング時日常生活支援事業や成年後見制度について研修を行っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や重要説明事項などの説明などは各資料に基づいて分かりやすい言葉で説明している。また改正時は全家族に内容を連絡し来苑時に再度説明している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	母体の玄関に「苦情箱」を設置し、各家族に意見や要望をうかがう準備をしている。また手紙送付時や来苑時に職員が意見を聴きとるようにしている。	苦情相談窓口や受付担当者、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理手続きを定めている。利用者や家族が気軽に意見や要望を言えるように、面会時や電話、声かけをしたりなど、個別に話ができる場を設けている。利用者はテレビの向き等、気軽に要望を伝えており、配置に工夫をしている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はミーティングなどで職員の意見・要望を聞き、代表者へ反映している。代表者や管理者は現場に出て職員に声かけ積極的にコミュニケーションをとりできることは改善している。	日常の中で代表者や管理者は職員の意見を聞く機会があり、気軽に意見が言えるよう雰囲気づくりを心がけている。ミーティングや業務の中で出された意見や要望は運営に反映させている。勤務シフトの工夫をして働きやすい環境づくりに反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者へ職員個々の特性や特技を生かし、向上心を持って職務に就けるよう指導するよう指示している。また定期的に職員の勤務状態など1話し合い必要ならば本人と面談を行っている。休憩は時間を定めてとれるようにし、タイムカードに取った時間を記入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員を育成するための施設内研修を行うように管理者に指示している。自己評価表などを使用しスキルアップにつなげている。職員全員が外部研修に参加できるようにしている。	外部研修は職員の段階に応じて情報を提供するとともに、実務者研修や中堅研修は勤務の一環として受講の機会を提供している。事業所内では管理者が指導者となり、月に1回ミーティング時に研修を実施している。	・内部研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、地域ケア会議やグループホーム協議会、介護支援専門員連絡協議会へ積極的に参加させてサービスの質の向上させていく取り組みをしている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者様やご家族と面談し不安感から付随して起きる行動、本人からのシグナルがわかるよう聞き取っている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は複数回利用者様やご家族と面談し、入居後も面会や電話の時に家族の思いを聞き取るようにしている。家族に生活歴を記入していただくようにしている。(呼称など)		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居を前提とせず、地域の社会資源を活用できる方法を助言している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で利用者様は人生の先輩として尊敬し、培われた知恵(昔ながらの料理や生活習慣、習わし)などを教えていただき生活の中に取り入れる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームをもう一つの自宅と思っていただき、包み隠さず生活の様子を1回/月の手紙や電話など、または面会時に伝え、一緒に支えていく関係を作っている。生活歴を繰り返し聴き取り利用者様の歴史を知るようにしている。介護者である夫の面会時には自宅での役割、介護者として妻にかかわっていただいている。食事介助・更衣など		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会時、職員も会話の中に入り会話が成り立つようにしている。また知人や家族からなじみの場所を聞きとり。会話やケアに生かしている。	家族や知人、本人との日常会話の中から馴染みの場所や人を把握し、家族の協力を得て、馴染みの商店への買物、美容院の利用、自宅周辺等に出かけるなど、馴染みの場所や人との関係が途切れないよう支援している。親族や知人の訪問や家族、友人との電話、手紙、年賀状等つながりを継続できる支援を行っている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの設定が家をイメージさせ、台所や食卓、ソファや畳があり家庭的な雰囲気できれいに過ごせるようにしており、トラブルが発生した場合は職員が間に入り、場面転換を図ったりしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に応報誌を送るようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の行いたいことを会話や言葉から察知し、本人の生活リズムを崩さないように手伝いをさせていただいたり、買いものや散歩に出かけている。伝達の不可や意思表出能力にかかわらずどのような場面においても利用者様の意思を確認できるよう声かけしている。例えば今まで生活をされていた嗜好を大切にブラックコーヒーが好きな方、紅茶の好きな方など個別に対応しています。	利用者一人ひとりに担当職員がおり、思いや暮らし方の希望、意向を、むかし話を聞いたり何気ない会話から把握に努め、ケース記録や利用者申し送りノートに記録し職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や関わっていたサービス担当者からの情報収集を行なっている。ご家族が来られた時には近況を報告し、今までの生活の様子を聞いて、利用者様の昔のイメージが湧くよう努力している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日健康チェックを行い、また個人のケース記録や利用者様の申し送り帳などを利用し把握に努めている。各利用者様には担当者がおり、1回/1～6ヶ月再アセスメントを行なっている。朝の申し送り後、日勤者がカンファレンスを行い、利用者様の過ごし方を検討している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者様には担当がおり、本人・家族から細かな生活歴などを聞き取る努力をしている。入居前の日常生活をイメージしながら「マイプラン」として職員全体で介護計画を作成している。 毎月担当者がモニタリングを行い新たな課題発生がないか、その人らしい生活が送れているのか評価を行う。課題が生じたときは家族・担当者・職員全体で検討し計画を作成し直す。ご家族がこられたときには常に意向を確認し意向に添えるように計画につなげている。	評価は担当制としている。全員でカンファレンスを実施し、主治医や家族の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、3～6ヶ月毎、計画の見直しを行っている。状態に変化があればその都度見直しを行い、現状に即した計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯にて関わるスタッフが、利用者様の様子で気づいたことや変化があった際に記入できる用紙を用意しておき、書き込んでいく。その中で特に重要だと思われることをケア記録に記入を行い、記入するほどでもないが大切だと思われることは口頭で申し送っていく。介護計画実践についてはケア記録に色分けし記入介護計画の見直しが必要だと思われる時には検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	妻が入所され夫の役割が無く寂しく思われているご家族は1日置きに来苑され夕食と一緒に食べ、更衣や口腔ケアを手伝っていただいている。また他のご家族はゆっくりソファでお二人の時間を過ごされ昔の写真を見ながらご家族の話や昔旅行した思い出を語られている。 泊まっていただけるように配慮できればと考えている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一昨年に引き続き、地域の方参加にて当苑で夏祭りを行なった。今後も続けていく予定です。 また避難訓練・もちつき等地域の方参加、応援にて行なっている。安全でその人らしく生きていただくため、地域の活動に参加したり社会交流ができるように各機関との連携を図っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人以外のかかりつけ医の場合は必ず職員が同行し利用者様が受けていた医療が受けられるようにしている。法人の医療機関については家族・本人の了解を得てかかりつけ医を変更している。	協力医療機関が主治医であり、2週間に1回の往診がある。その他の医療機関の受診は職員が紹介状を持って同行し、適切な時期に適切な医療が受けられるよう支援している。受診結果は、その都度、申し送りや記録を通して家族や職員が共有できるようにしている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に複数の看護師がおり、また法人内の医療機関の看護師とも連携が取れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の担当医に利用者様の生活リズムや、生活様式、特徴をできるだけ細かく伝え両者が困らないようにしている。退院時に備えほぼ毎日職員がお見舞いに出向き、状態を常に把握している。入院先の看護師や地域連携室と連携を取り退院時に利用者様や家族また職員が困らないようにしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	何度も家族と相談し意向を確認する。承諾書を作成し説明し、早いうちに書面をもって再度の意向確認をしながら方針を共有し、支援を行っている。看護職・介護職間の情報共有に努めるようにしている。	利用者の重度化及び看取り介護に関する方針があり、契約時に本人・家族に説明し同意を得ている。重度化した場合は、早い段階から家族・協力医・主治医・看護師等と連携し、話し合いを重ね、方針を共有し、医療施設への移設も含めて支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	開設時の職員研修にて救急講習を受けており、またマニュアルを作成し緊急時の対応を行えるようにしている。昨年も救急講習会を行った。 夜勤時は始業前夜勤者が集まり異常者の報告・緊急連絡方法・火災時の対応など毎日確認している。日々のケアを行う際には利用者様の行動パターンやADLを把握し、職員が常に見守り事故防止に努める。ヒヤリハット事例は1週間申し送り安全策を職員全員で共有している。	「ヒヤリハット報告書」に記載し、全員が共有し、発生の都度、全職員は、その報告に対する各自の対応策を記載することで発生事象の確認、再発防止や一人ひとりの事故防止に努めている。全職員はAEDの使用方法や救急救命法の研修を受講している。夜勤開始時には、法人の同施設内夜勤者は一同に会し、緊急時の対応の実際について確認し、夜間の安心、安全対策に努めている。全職員が応急対応や初期対応の実践力が身につくまでには至っていない。	・全職員を対象とした応急手当や初期対応の実践的、定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し火災報知器の使用方法をはじめ日頃から災害に対する意識を持ち利用者様の安全を第一としている。夜勤開始時には夜勤者でマニュアルの確認を毎日行なっている。地域の方との合同訓練を行い、目下緊急連絡方法や救出方法などの協力体制マニュアルの作成中である。	災害対策マニュアルを作成し、年2回(夜間想定含)消防署の協力を得て、利用者、地域住民とともに消防避難訓練を実施している。運営推進会議や消防団との話し合いを通して、避難場所や避難方法、自治会を含む連絡網の作成等、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として「人として尊重する」ことを基本にして、丁寧な言葉かけや対応に心がけている。(居室訪室時本人の了解を得る。入浴時・排泄時・部屋で過ごされている場合のプライバシーは損ねない)トイレなどの声かけは利用者様の耳元で行なっている。	「プライバシー保護マニュアル」を作成し、人格の尊重とプライバシーの保護については十分理解し対応している。呼称については、節度のある呼びかけをし、丁寧でゆっくりした言葉かけをするよう努めている。入浴時やトイレ誘導時、居室への入室時には、誇りやプライバシーを損ねない対応をするとともに守秘義務についても厳守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホーム内の生活ペースを本人の生活ペースとし、急がせたり、できない人と決めつけたり、無理強いをしたりしない関わり方を心がけている。例えばお茶の時間もお一人お一人に希望の飲み物を聞いている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間、食事時間、レクリエーションの参加、入浴希望など本人の希望に沿って支援している。職員側のスケジュールは決定せず、本人の希望に添うことを統一している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひとりひとりの個性を尊重し、自分で身支度できる方は好みの服を選択していただき、できない方はその人らしい装いができるようにさりげなく職員も手伝う。季節の洋服や装飾品を職員と共に買いに行ったり、また身に付けていただいている。 外出時や行事のあるときは必ずお化粧をしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとりひとりの好物や嫌いなものを聞き取り、極力美味しく食べていただけるように配慮している。食事の準備やあとかたづけを手伝っていただき役割を発揮できる場面を作っている。身体状態に応じた食事形態も工夫している。また安易にミキサーや刻み食にはしていない。その日の状態に応じて飲み込みが悪いようであれば刻むなどで形態を変えてみるが、まずは普通食で様子を見ている。	三食とも法人厨房からの配食を利用している。利用者は運搬、盛り付け、ランチョンマット拭き、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。正月、クリスマス、誕生日の行事食のほか、週に1回の調理の日には、利用者と職員と一緒に献立を立てたり、買物に行ったり、調理をするなど食事が楽しみなものになるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの摂取量を把握し毎食摂取量のチェックを行い摂取量の少ない方には好みの再確認、形態や食材の工夫を行なっている。午前・午後のおやつ時のお茶、食事の時、また入浴後にお茶を差し上げ水分補給には常に心がけている。摂取量が気になる方は別紙にて食事内容や量、水分量を記入し健康維持に努めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の状態に合わせて口腔ケアを行なっている。義歯は夕食後入れ歯洗浄剤に付けて、清潔に心がけている。歯ブラシ・コップも定期的に消毒し、保管している。口腔内にトラブルが発症した場合は訪問歯科診療を利用し専門家と連携をとっている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排尿パターンを排泄表で把握しまた利用者様の行動や言動から排泄シグナルを察知し利用者様に合わせた時間帯に声かけや誘導を行なっている。(嫌がられる場合は時間をおいたり、職員が交代などして対応している)おむつ使用も夜間のみと工夫している。	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、プライバシーに配慮した排泄支援を行い、トイレでの排泄を基本とした支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に水分補給や適切な運動を心がける。(定時のラジオ体操や散歩)ヨーグルト・牛乳など飲んでいただき薬に頼らないように工夫している。排便の確認をチェック表にて管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日、入浴時間は10～20時までとし入浴は利用者様一人ひとりの希望や体調で決定している。利用者様のペースに合わせてゆっくり入浴できるように入浴方法を工夫している。	入浴時間をゆったりと取り、一人ひとりの体調や希望に合わせて入浴時間帯を決め、毎日入浴することが出来る。入浴を嫌がる利用者には声かけの工夫や職員の交代、利用者同士による声かけ、二人での入浴等の工夫をし、入浴を楽しむことが出来るよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中から落ち着ける環境を提供し、一人ひとりの睡眠パターンを大切に本人が安心して就寝・起床できるようにしている。快適に眠れるよう居室の温度・湿度や状態も細かくチェックを行い調整している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様個人の処方説明書をファイルし職員がいつでも閲覧できるようにし、薬の目的や副作用を確認している。確実な服薬支援や症状変化には速やかに医師や薬剤師に連絡行っている。体調の変化から内服薬の変更があった場合は必ず申し送りやノートにて確認しています。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中から「昔取った杵づか」というように本人の力を生かせる台所仕事、掃除、洗濯たたみなど出番を見いだせるよう場面作りをしている。お茶の時間にはお一人お一人の希望を聞き、またコーヒーの好みも職員が把握し提供している。	餅つきやクリスマス会等の季節行事、壁面を飾る貼り絵の作成、そろばん、カラオケ、風船バレー、一人ひとりの嗜好にあわせてお茶メニューの提供や、米を研いだり、野菜の皮むき、盛り付け、掃除、洗濯物たたみなど、利用者の力を活かした活躍できる場面を多く作り、張り合いのある毎日が送れるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩希望時には可能な限りスタッフが付き添い、利用者様の思いに添えるように工夫し対応している。ご本人から意思表示がない場合も職員が散歩に誘い季節の風を感じていただくようにしている。月に一回は利用者様と担当者と外出し1対1で出かけるようにしている。その際のボランティアも検討中である。また家族の希望があれば外出・外泊をしていただいている。	周辺の散歩や近所のスーパーやパン屋への買い物、ドライブでの桜の花見や公園、初詣、馴染みの場所へ出かけるなど、利用者の希望にそって家族と協力しながら外出できるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1対1で出かける機会があるときには支払いをしていただいたり、買うときに簡単な計算をしてもらったりしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がかけたいと思われたり、家族との連絡をとったほうが落ち着くと判断した場合対応している。また母の日などの家族からのプレゼントに対して利用者様と職員は一緒にお礼の電話を入れている。年賀状を利用者様と一緒に作り、各ご家庭に送った。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感ある貼り絵などを壁面構成したり、なじみの音楽を流したり、食事時にはご飯が炊ける匂いがしたり、職員も声の大きさを場面で工夫し、利用者様には生活の場面場面で手伝っていただき心地よく過ごせるように工夫している。午前中は南から日光を浴びることができる。	大きな窓から海が見渡せるリビングと居室に続く廊下は広く、明るく、清潔感があり、テレビや机、椅子、ソファをゆったりと配置している。中央にあるアイランドキッチンや一角にある畳室は家庭的な落ち着いた空間となっており、利用者が思い思いの場所で居心地よく過ごせるよう工夫出している。壁面には、利用者の作品である季節のちぎり絵や季節行事での利用者の顔写真を飾り、室内にいても季節を感じるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには食事用のテーブルやソファ、畳を用意し思い思いに自由に過ごせるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、ダンス、写真、茶碗、箸など使い慣れた家具や思い出の品を持ち込んでもらっている。利用者様の行動に合わせた家具の配置(畳の設置)や花を飾ったりまた趣味で撮られた写真や絵画なども持ち込んでいただいている。担当者が整理整頓もこまめに行なっている。	テレビ、ダンス、整理棚、衣類かけ、鏡など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、壁面には家族写真や自作品を飾り、居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室に手すりが取り付けがあるので職員が介助しながらその方の力を維持できるように努めている。また安易に福祉機器に頼らないように一人一人を細かく観察し危険場所を確認し改善しつつ安全に生活を送ってもらえるようにしている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホームなみおと

作成日：平成 24年 5月 28日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	外部研修は受講の機会があるが、それを他の職員と共有する機会がない。 また、内部研修が職員にとって受けるばかりの一方通行になっておりどのように把握しているのか不明である。	内部研修の職員に向けた研修の充実	職員全員が課題に沿った自己学習や外部研修で学んだことをミーティングで発表する場を作り、積極的に学ぶ姿勢を築いていく。	
2	35	全職員が応急対応や初期対応の実践力が身に着くまでには至っていない。	応急処置を職員全員ができるよう、取り組む。	いくつかの応急場面を想定し、看護師が中心となり応急処置を学ぶ場を作り、職員全員が処置や対応ができるようにしていく。	
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。